

## 西中国山地におけるソウシチヨウの営巢初確認と生息状況

上野 吉雄<sup>1)</sup>・荒木 信<sup>2)</sup>・小柴 正記<sup>3)</sup>・日比野 政彦<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup> 広島県立原養護学校・<sup>2)</sup> 荒木医院・<sup>3)</sup> 広島市水道局・<sup>4)</sup> 安田女子大学

### The First Record of Breeding by the Red-Billed Leiothrix, *Leiothrix lutea*, in Nishi-Chugoku Mountains

Yoshio UENO<sup>1)</sup>, Makoto ARAKI<sup>2)</sup>, Masaki KOSHIBA<sup>3)</sup> and Masahiko HIBINO<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup> Hara School for Disadvantaged Children, 73-1 Hara, Hatsukaichi 738-0031,

<sup>2)</sup> Araki Clinic, 2-10-19 Yokogawa, Nishi-ku, Hiroshima 733-0011,

<sup>3)</sup> Bureau of Waterworks, Hiroshima City, 9-32 Motomachi, Naka-ku, Hiroshima 730-0011 and

<sup>4)</sup> Yasuda Women's University, 6-13-1 Yasuhigashi, Asaminami-ku, Hiroshima 731-0153

**Abstract** : Nests and nestlings of the Red-billed Leiothrix, *Leiothrix lutea*, were found for the first time in Nishi-Chugoku Mountains. The nests were recorded mainly in the *Sasa tsuboiana* community. They were suspended from the culms. We found that occurrence of *L. lutea* was rare in this area, by using the tracer method.

©2005 Geihoku-cho Board of Education, All rights reserved.

#### はじめに

ソウシチヨウ *Leiothrix lutea* は中国南部、ベトナム北部、ミャンマー北部、インド・アッサム地方、ヒマラヤ西部などに分布するチメドリ科の鳥である。国内には以前から飼い鳥として大量に輸入され、飼育されている。それらの中で逃げ出したものが野外に定着して自然林で増加している。本州では六甲山系、生駒山系、大台ヶ原、丹沢山系、秩父山系、筑波山などで繁殖しており（日本生態学会 2002）、九州では1,000mを超える山系のほとんどで繁殖し、在来鳥類への影響も危惧されている（江口・増田 1994, Amano and Eguchi 2002）。近年、西中国山地のブナ帯でも見られるようになった（上野ほか 2003）。

今回、我々は廿日市市十方山林道において西中国山地で初めてソウシチヨウの繁殖を確認し、若干の知見を得たので報告する。

## 調査地の概要

広島県西部から北西部にかけては吉和冠山(1,339m)、広高山(1,271m)、十方山(1,318.9m)、恐羅漢山(1,346.4m)、臥竜山(1,223.4m)、掛頭山(1,126.1m)、天狗石山(1,191.8m)、阿佐山(1,218.2m)などの1,000m級の山々が連なり、西中国山地を形成している。今回の調査でソウシチョウの巣が確認されたのは、西中国山地の中の廿日市市十方山林道である(図1)。

植生は高木層としてミズナラ *Quercus mongolica*, サワグルミ *Pterocarya rhoifolia* などが見られ、亜高木層としてチドリノキ *Acer carpiniifolium*, アサガラ *Pterostyrax corymbosa* などが見られ、低木層としてイブキザサ *Sasa tsuboiana* が繁茂している溪畔林である(図版1-B)。

動物相としてはモリアオガエル *Rhacophorus arboreus*, ニホンヒキガエル *Bufo japonicus*, アオダイショウ *Elaphe climacophra*, ヤマカガシ *Rabdophis tigrinus*, アカシヨウビン *Halcyon coromanda*, コノハズク *Otus sunia*, カケス *Garrulus glandarius*, テン *Martes melampus*, ニホンイタチ *Mustela itatsi*, ツキノワグマ *Selenarctos thibetanus* などが生息している。

## 調査方法

2004年4月5日から2004年10月3日までの間に、目視およびさえずりによる調査と標識調査を行った。調査地は西中国山地に属する廿日市市十方山林道である。

4月25日から7月3日にかけて目視調査を実施するとともに、さえずっている個体の位置を地図上に記入した。観察には双眼鏡(8倍)を使用し、育雛行動は巣の近くにビデオカメラを設置して記録した。

標識調査は、環境省大臣の許可を得て行い、かすみ網(24mmメッシュ、長さ12m、高さ2.6m)を16から32枚、ソウシチョウが移動経路として利用している林道などに張った。捕獲した個体については性、年齢、抱卵斑や総排泄肛の大きさなどから繁殖状態を調べ、外部形態を測定した後、環境省の鳥類標識用の足環を装着して放鳥した。

## 調査結果

### 1. 繁殖の確認

4月5日の調査ではソウシチョウを確認できなかった。4月25日の調査では3地点でソウシチョウのさえずりを確認した。5月8日の調査で、11時に餌をくわえたつがいを確認した。11時40分に3羽で連れ立って行動しているのを観察した。17時15分に第1巣を発見した(図1)。巣はイブキザサの群落の中にあり(図版1-A)、きわめて発見が難しかった。

巣はイネ科植物の茎やササの枯れ葉、コケなどを用いた、直径約11cm、高さ約10cm、内径約6cm、深さ約6cmの椀型で、産座にはシダ類の細根が敷かれていた。巣の位置はイブキザサの地上から約50cmの所で、イネ科植物の細茎を使ってメジロの巣に似た方法で吊り下げられていた(図

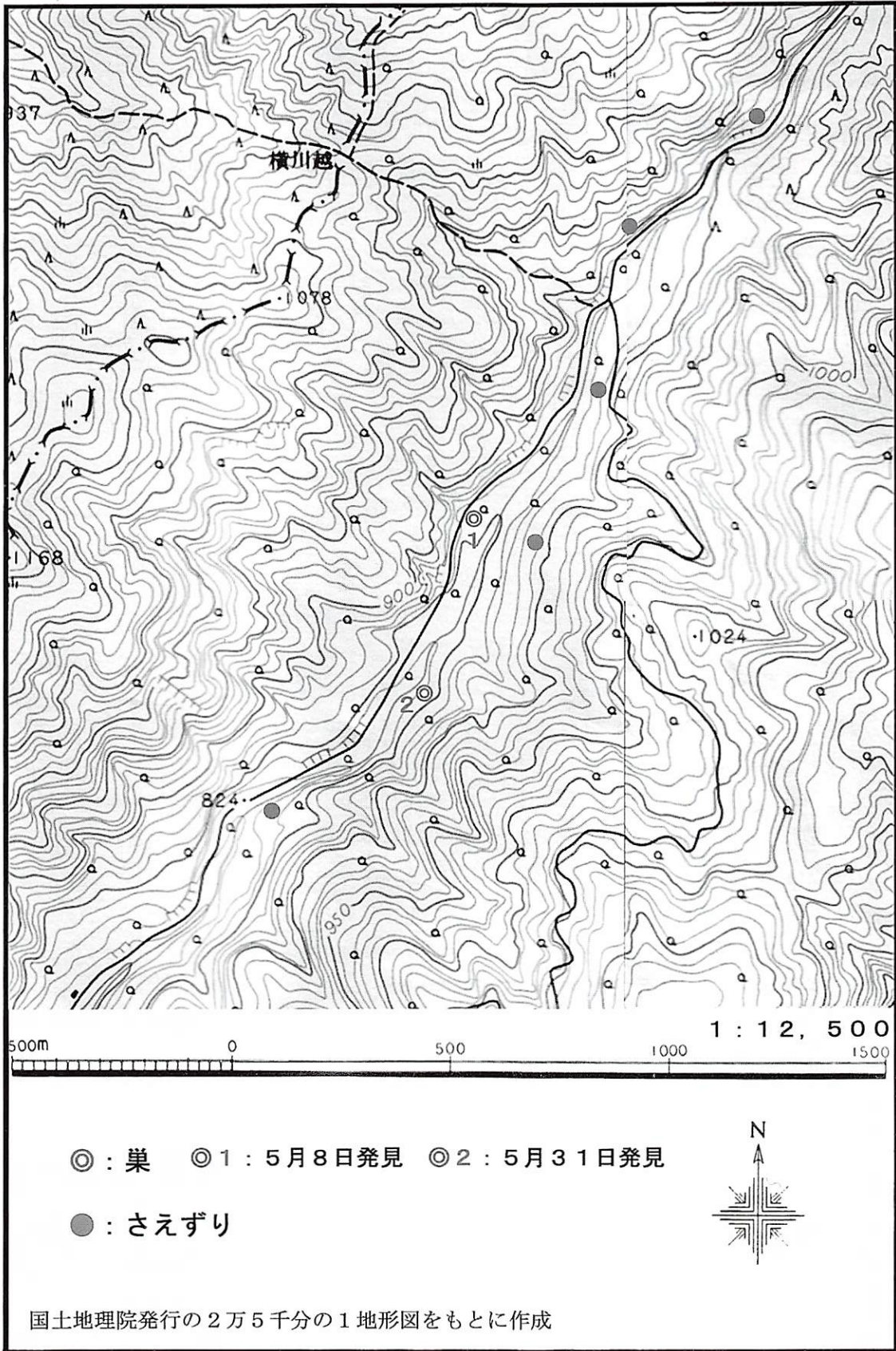


図1 ソウシチョウのさえずり地点と巣の位置

版1-C).

巢内には孵化後4～5日と推定される雛3羽と1個の無精卵があった(図版1-D). 卵は淡青色の地に、褐色の粗い斑があった.

5月9日の15時30分から17時10分までの1時間20分間、巢のそばにビデオカメラを設置し、育雛行動を記録した. 記録した時間内に6回の給餌が見られた. 給餌時間の間隔は2分から47分であった. 餌は鱗翅目の成虫と幼虫がほとんどであった. また、小雨が降り出すとともに、2時20分から47分間雌が抱雛した.

5月15日に観察したところ巢内には雛がおらず、巢立った形跡もなかった.

5月31日には杉島洋、金井塚務両氏により別の場所で第2巢が発見された(図1). この巢もイブキザサの地上から86cmの位置に吊り下げられていた. 巢内には3卵があった. 6月13日に観察したところ巢内の卵は消失しており、巢立った形跡もなかった.

## 2. 生息状況

調査地内におけるソウシチョウの生息密度を調査する目的で、さえずっている個体を調査し、その位置を記録した(図1). 林道にそって5地点で約400mごとにさえずりを確認し、調査地全域で合計5羽の雄をカウントした.

## 3. 標識調査

ソウシチョウの幼鳥の出現状況について知る目的で標識調査を行った. 7月4日にかすみ網を16枚張り、6羽を捕獲し、標識した. 6羽はすべて成鳥で、雄が4羽、雌が2羽であった.

8月14、15日にかすみ網を32枚張り、雄成鳥10羽、雌成鳥6羽、幼鳥9羽の合計25羽を捕獲した. うち、20羽は新捕獲で、5羽は再捕獲であった. 再捕獲の5羽のうち4羽は雄成鳥で、1羽は雌成鳥であった. なお、再捕獲のうち1羽の雄は昨年10月19日に標識した個体であり、4羽は今年の7月4日に標識した個体である. また、すでに換羽が始まっている個体も見られた.

8月29日にかすみ網を10枚張り、雄成鳥2羽、雌成鳥3羽の合計5羽を捕獲し、幼鳥はいなかった. うち、4羽は新捕獲で、1羽は再捕獲であった. 新捕獲の4羽のうち、雄成鳥が1羽、雌成鳥が3羽であった. 再捕獲の1羽は8月14日に標識した雄成鳥である.

10月3日にかすみ網を32枚張り、雄成鳥1羽、雌成鳥1羽、性不明成鳥12羽、幼鳥4羽の合計18羽を捕獲した. うち、16羽は新捕獲で、2羽は再捕獲であった. 再捕獲の1羽は8月14日に標識した雄成鳥で、もう1羽は8月14日に標識した雌成鳥であった.

以上4回の標識調査で合計47羽を捕獲、標識し、うち1羽は昨年標識した個体であった.

## 考 察

2003年までの調査では、繁殖については巢立ち雛を本調査地で確認しただけで、巢はまだ確認されていなかった(上野ほか2003). 今回の調査で巢と雛が確認されたが、見通しの悪いイブキザサの群落中に作られた巢の発見はきわめて難しかった. また、2巢とも観察途中で卵と雛が消失したので、捕食圧はかなり高いと考えられる. 調査地内には巢内の雛を捕食すると思われるテン、ニホンイタチ、カケス、アオダイショウなどが生息している.

さえずっている個体の調査では、約400mごとにさえずりを確認した. しかし、7月4日の標

識調査では、かすみ網16枚を張った約200mの区間で4羽の雄が捕獲されたので、実際の生息密度は50mに1羽の雄がいたことになる。これは筑波山における繁殖密度と同様であり (Tojo and Nakamura 2004)、他のスズメ目の鳥類の繁殖密度よりも高い。したがって、さえずっている個体数の確認だけによって本種の生息密度を推定することは難しいと考えられる。

7月4日の標識調査では幼鳥が捕獲されなかったが、8月14、15日の標識調査では9羽の幼鳥が捕獲され、このころには雛が巣立っていることが確認された。

2003年の標識調査において同一地点で70羽のソウシチョウを捕獲し (上野ほか 2003)、2004年は47羽を捕獲したが、2003年の個体が再捕獲されたのは1羽のみであった。これは、本調査地におけるソウシチョウの個体の入れ替わりがはげしいことを示していると思われる。筑波山塊においても同様に個体の定着率が低いことが報告されている (東條 1994)。

2003年の10月の調査ではミズキ *Cornus controversa* の果実を採食する50羽以上の群れが見られたが (上野ほか 2003)、2004年は9月7日に通過した大型の台風18号によりミズキなどの果実が落下し、2003年のような群れは見あたらなかった。

本調査地内のソウシチョウは2003年の繁殖期には2個体のさえずりを確認したが、2004年は同一地域内で5個体のさえずりを確認した。このように、本調査地内のソウシチョウは2003年に比較すると繁殖個体数が増加していると考えられ、今後も増加する可能性があるので、在来鳥類に対する影響等も含めて引き続き調査する必要があると考える。

## 謝 辞

本調査を行うにあたり、ササ類の同定をしていただいた庄原格致高等学校の濱田展也氏、調査等にご協力いただいた日本野鳥の会広島県支部の中崎悦子氏にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。また、ソウシチョウに関する情報を快く提供していただいた、広島フィールドミュージアムの金井塚務氏、杉島洋氏、森林総合研究所の東條一史氏にお礼申し上げます。

## 摘 要

1. 2004年5月に廿日市市十方山林道において、ソウシチョウの巣と雛を西中国山地で初めて確認した。
2. 2個の巣はいずれもイブキザサの群落内にあり、イブキザサの地上から約50cmと86cmの位置にメジロの巣に似た方法で吊り下げられていた。
3. 4回の標識調査で雄成鳥12羽、雌成鳥10羽、性不明成鳥12羽、幼鳥13羽の合計47羽を捕獲した。
4. 2003年に調査地内で捕獲した70羽のうち、2004年に再捕獲されたのは1羽のみで、本調査地におけるソウシチョウの個体の定着率の低さが明らかになった。

## 参 考 文 献

- Amano, H.E. and Eguchi, K. 2002 Nest-site selection of the Red-billed Leiothrix and Japanese Bush Warbler in Japan Ornithological Science 1 : 101-110
- 江口和洋・天野一葉 1999 移入鳥類の帰化 日本鳥学会誌 47 : 97-114
- 江口和洋・増田智久 1994 九州におけるソウシチョウ *Leiothrix lutea* の生息環境 日本鳥学会誌 43 : 91-100
- 日本生態学会 編 2002 外来種ハンドブック 地人書館 390pp. 東京
- 東條一史 1994 筑波山塊におけるソウシチョウ *Leiothrix lutea* の増加 日本鳥学会誌 43 : 39-42
- 東條一史 1996 日本における帰化鳥類の現状と問題点 関西自然保護機構会報 18 : 107-114
- Tojo H and Nakamura S 2004 Breeding density of exotic Red-billed Leiothrix and native bird species on Mt. Tsukuba, central Japan Ornithological Science 3 : 23-32
- 上野吉雄・荒木 信・小柴正記・日々野政彦 2004 西中国山地におけるソウシチョウの生息状況 高原の自然史 9 : 111-121
- 山岸 哲・樋口広芳 共編 2002 これからの鳥類学 裳華房 506pp. 東京

2004年9月4日受付；2004年12月13日受理

---

## 図 版 1

A : 営巣環境 (林床部)	廿日市市十方山林道	2004年5月15日
B : 営巣環境	廿日市市十方山林道	2004年5月15日
C : 巣	廿日市市十方山林道	2004年5月15日
D : 雛と卵	廿日市市十方山林道	2004年5月8日

